



## ディスクロージャー

# 2020年度事業の概要

### 貯金

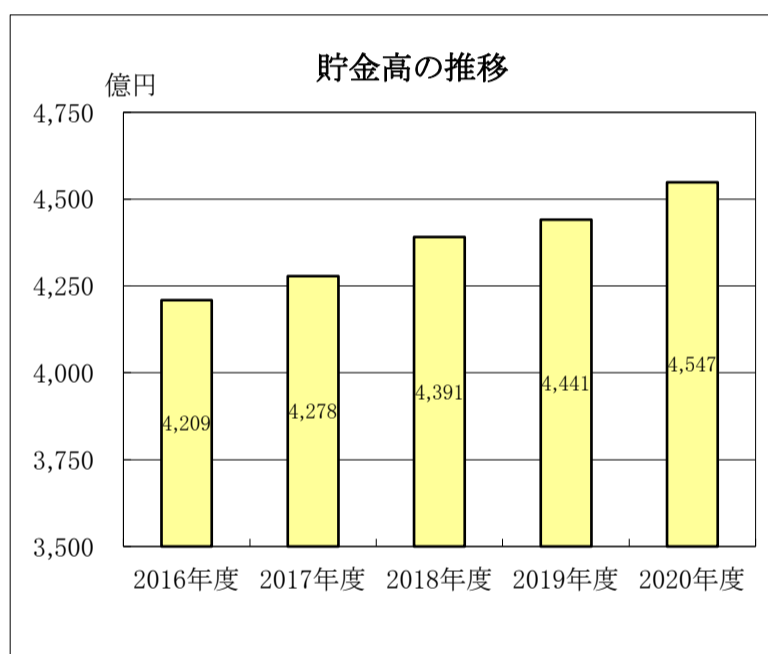
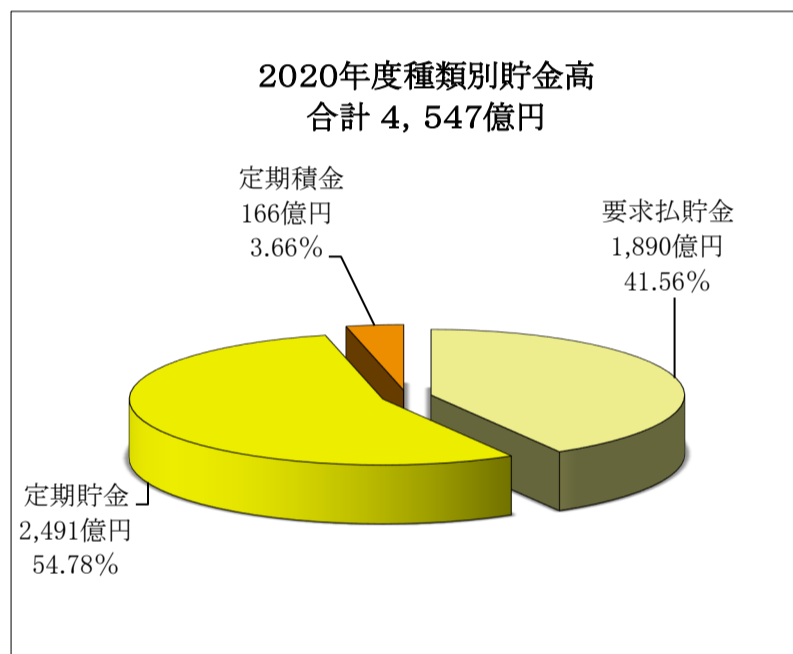
組合員・利用者の声に真摯に耳を傾け、寄り添った相談対応を行い、一人一人のニーズに応じた金融商品・金融サービスを提供するとともに、訪問活動に重点を置くことにより地域に根差したJAとなるようつとめました。

時代の流れに対応し、今後もさらなる機能拡充が見込まれるJAネットバンク・JAバンクアプリ等の利用を促進し、利用者満足の上に取り組みました。

貯金のキャンペーンでは、地域の農産物を景品としてPRするJAらしい企画として取り組み、利用者の拡大につとめました。

また、金融取引の変化にともない次世代層のニーズを反映したJAネットバンクの機能拡充やJAバンクアプリの導入により利便性を拡大させました。

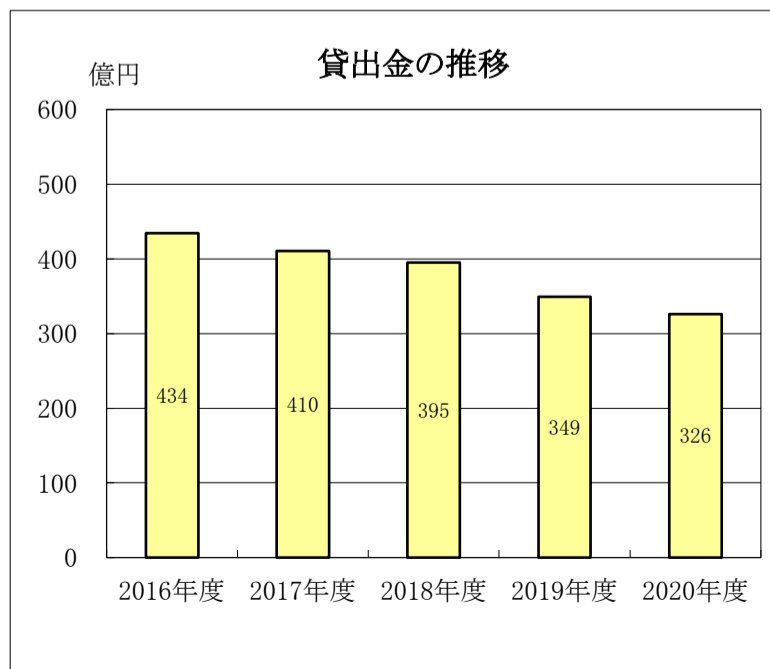
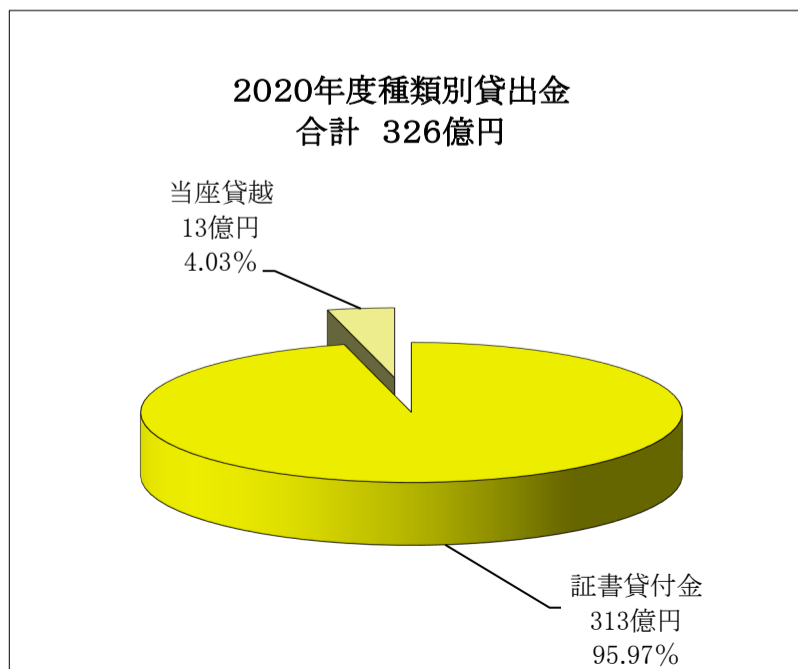
そのほかにも、年金友の会活動を中心に明るいシニアライフの応援や、次世代への円滑な継承を支援する「相続個別相談会」を開催するなど、JAらしい価値の提供をとおして、組合員・利用者から一層必要とされる店舗展開に取り組みました。



### 貸出金

農業者の所得向上と地域農業の発展に向けた取り組みとして、農業資金融資にともなう利子補給、保証料助成制度(農業・農業者応援プラン)を活用し、費用の負担軽減や規模拡大の支援を行うことができました。

また、住宅ローンをはじめ各種ローン(リフォーム・マイカー・教育ローン等)においては、低金利で利用しやすい商品を提供するとともに、誰でも簡単に仮申込みが行えるネットローンを幅広い年齢層にPRしたことで多くの方にご利用いただきました。



## 貸倒引当金

債権等の貸倒れによる損失に備えるため、金融検査マニュアルおよび資産査定要領にもとづき、厳正な資産の自己査定を行い健全化に取り組んでいます。貸倒引当金については、自己査定の結果をふまえ、債権の償却引当基準にもとづいて必要額を計上しています。当期の貸倒引当金の総額は1億2,944万円(うち個別貸倒引当金1億2,898万円)となりました。

## 自己資本比率

多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめ、不良債権処理および業務の効率化等に取り組んだ結果、2020年度3月末における自己資本比率は17.62%となりました。

## 共済事業

LA(共済外務専門員)、スマイルサポーター(窓口担当者)による丁寧な加入内容説明を心がけるとともに、キャンペーンを活用したお知らせ活動を行い、長期共済および短期共済の普及拡大をはかりました。

また、ライフサイクルに合った相談や保障見直しにより、組合員の皆さまや契約者の方々の「安心と満足の提供」に取り組ましました。

長期共済では、「加入内容説明」を中心とした訪問活動により、入院や手術の請求漏れがないかの確認および仕組改訂のお知らせをきっかけとした情報提供・保障見直しに取り組ましました。新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、「ひと保障」に対する関心度が高まっているなか、JA共済でのお役立ち情報の提供および保障の提案活動に取り組ましました。

短期共済では、自動車共済「クルマスター」をおすすめし、人身傷害保障・弁護士費用保障特約の付加などのグレードアップにつとめました。自動車事故対応は、従来の「日中現場急行」「休日・夜間現場急行」に加え、事故現場での代車手配などの対応を充実させ、事故時の不安解消につとめました。

2020年度3月末における長期共済保有高は1兆3,095億円、お役に立った共済金の支払いは238億円でした。

## 購買事業

組合員の営農活動を支援するため、春の肥料・農薬を中心に生産資材の早期予約購買を推進するとともに、省力化肥料や大型規格農薬の提案、ならびに予約積み上げ数量をベースにメーカーとの価格交渉を行い、省力化と生産コスト低減につとめました。

ビニールハウス等の廃ビニールについては、農業用廃プラスチックとして回収し、委託業者をつうじて適正に処理するなど、環境に配慮した取り組みをすすめました。

また、地産地消の取り組みとして、「京たんご梨」「京の肉」「亀岡牛」など、JA京都管内の農畜産物を中心にふれあい商材として推進を行いました。

## 販売事業

需要に即した京野菜・地域特産物の生産振興ををはかり、京都ブランドの強みを活かした販売力の強化につとめるとともに、農畜産物直売所を地産地消の拠点と位置づけ、管内農畜産物の消費拡大に取り組ましました。

また、ニーズに即した京野菜、酒造好適米、酒造用かけ米などの用途別生産に積極的に取り組ましました。

畜産酪農部では、生乳の良質乳生産に計画的に取り組み、肉牛は、国内牛のトレーサビリティの確立により「安全・安心」な牛肉の確保、京都府和牛子牛せり市での積極的な販売に取り組ましました。

農畜産物直売所「たわわ朝霧」では、管内の農畜産物の販売とあわせて、消費スタイルの変化に即した広報活動をつうじ、広域からの集客と販売につとめるとともに、外部販売にも積極的に取り組むなど事業量の拡大につとめました。

年間来客数は34万6千人となり、取扱高は9億2,137万円と前年を上回る過去最高の実績となりました。

## 加工事業

牛乳の消費量は、飲用向けの需要量が堅調に推移しました。生活様式の変化にともなう家庭内消費が増える状況のもと、消費拡大の取り組みとして、「安全・安心」な生産者の顔が見える地産牛乳の特性を發揮し、積極的に販売活動を展開した結果、加工販売高は20億2千万円となりました。

## 利用事業

育苗センターにおける健苗育成、カントリーエレベーターやライスセンターでは品位の揃った米に仕上げ、地域の農業を支援する基幹施設としての機能發揮につとめました。また、7年目の取り組みとなった稲発酵粗飼料用稲(WCS)の栽培と定着に向け、JAの施設を利用した農作業受委託をすすめました。

2020年度の利用事業の利用高は7億1千万円の実績となりました。